

宇都宮市立富屋小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思うか」や「将来の夢や目標を持っているか」との問いに対して、肯定的回答をした児童の割合が県や全国を上回った。引き続き、学校の諸活動の中で自尊感情や自己有用感を育むとともに、小学校卒業に向けて、将来を展望し、自己の生き方を考える時間を設けて、よりよく生活していこうとする態度や実践意欲を育てる。

○「学校に行くのは楽しいと思うか」との問いに対して、肯定的回答をした児童の割合が県や全国をやや上回り、「学校で友達に会うのは楽しいと思うか」や「学校で好きな授業があるか」との問いに対しても、肯定的割合が県や全国と同等か上回っていた。どの設問についても、「そう思う」と明確に答えた児童の割合が県や全国よりも高かった。引き続き、児童にとって居がいや、やりがいのある教育活動を創造、実践し、児童を支援していく。

○「1日当たりどれくらいの時間、読書をするか」との問いに対して、「2時間以上」「1時間以上、2時間より少ない」「30分以上、1時間より少ない」と読書をしていると回答した児童の割合はいずれも県や全国を上回った。朝の読書の時間や休み時間での読書、家庭での読書など、読書活動が習慣化している様子が見える。また、「昼休みや放課後、学校が休みの日に、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行くか」との問いに対して、「週4回以上」「週1～3回」と回答した児童の割合も県や全国を上回った。学校の図書室では、司書が常駐し積極的に開放していることや、市民センターが近くにあることなど、図書館が身近にあり児童が足を運びやすいためであると考えられる。今後も児童の読書活動を後押しするとともに、調べ学習などでの図書館利用も行っていく。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりするか」との問いに対して、「4時間以上」と答えた児童の割合は県や全国をやや上回り、「3時間以上、4時間より少ない」と回答した児童の割合は県や全国を大きく上回った。半数の児童が1日に3時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴している結果となった。また、「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか」との問いに対して、「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童の割合は、それぞれ県や全国をやや上回った。コンピューターや携帯ゲーム機、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームなど様々なゲームがあるが、テレビの視聴とともに使い方や家での約束について児童に考える機会を設けたり、保護者に啓発をしたりしていく。

●「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするか」との問いに対して、「2時間以上、3時間より少ない」「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童の割合は県や全国をやや上回った。また「持っていない」と回答した児童の割合は県や全国を大きく下回り、多くの児童が携帯電話やスマートフォンを使用していることが分かる。引き続き「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」を意識させたり、使い方や家での約束について考えたりする機会を設けるとともに、保護者への啓発を図る。

宇都宮市立富屋小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
めあての提示文・言葉の吟味	めあてと学習問題は区別するために提示文の言葉を吟味して、焦点化された目当てを提示する。	めあてが提示されていたと回答した児童の割合は95%で県や全国を上回った。

課題に対する考えの足跡が残るようなノート指導（板書）
 発達段階に応じたノート指導を行い、各教科の授業の中で自分の考えを書く活動を意図的に取り入れている。また、思考の道筋が分かる板書計画と実践（模造紙を活用して教室に掲示し、授業の流

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語・算数とも自分の考えを書く問題について、解答しなかったり、解答を諦めた児童の割合が県や全国を上回った。	自分の意見や考えを筋道を立てたり、理由や根拠を明確にしたりして書くこと。	授業の中で個々に思考する時間を十分にとり、自分の意見や考えをノートに書く習慣をつける。また、書くときには、結果や評価だけでなく、そう考えた理由を記したり、筋道が通っているかを考えさせたりする。